



祭典合唱団ニュース

ひろしま

NO.8
2021年10月10日
発責：実行委員会

男声合唱団 地元初リアル練習会

緊急事態宣言が明けた10月3日(日) 14時から中広会館3階で、コンサートヒロシマIに出演する男声合唱のリアルでの地元練習会が初めて開催されました。同時にZoom配信をして全国の男声合唱団員にレッスンを視聴してもらうため、スタッフの山上茂典さんは、午前中の女声合唱の会場・中央公民館から機材を運搬、セッティングと、昼食をとる暇もないほどの忙しさの中で準備で、スタンバイOKとなりました。

レッスンは本番の14時には16人の男声合唱団員が揃い、指揮は高田龍治先生、ピアノ伴奏は神辺真希先生。男性だけの練習会は初めてでも、これまで祭典合唱団での練習で顔なじみとなつて仲間として、緊張の中にも和やかにレッスンが始まりました。

演奏曲は「俺たちの胸の火は」「機関車の歌」の2曲。はじめに高田先生からこの2曲は2021年日本のうたごえ祭典のために、松永勇次さんが新しく書き下ろした編曲で、アコーディオン2台、ピアノ1台の伴奏で演奏されることが紹介されました。

高田先生が参加者に2曲を知っているか聞いたところ、ほぼ半数が初めて歌う曲ということで、まず知ってもらうことから始めましょうと「俺たちの胸の火は」の曲を歌いました。8小節の前奏はアコーディオンパートも混ぜながらピアノで神辺先生が弾きはじめます。全曲を演奏した後、この曲の作られた歴史的な背景、三井三池炭鉱の争議と、その中で会社側に雇われた暴力団の手で殺された組合員



の久保さんの葬儀の現場で作詞され、それに荒木栄さんが作曲した話が披露され、「俺たちの胸の火は」の歌への思いが深められました。

「機関車の歌」については、国鉄分割・民営化の時、「組合つぶし」の攻撃の中、たたかう国鉄労働者への励ましと連帯の歌として創作された曲であり、大事な言葉は「それは使命、それは愛」です。

今回の演奏は11月3日(水・祝) 10時から中広会館です。

残念だったのは、Zoom配信がインターネット環境の問題で乱れて、後半、視聴出来なくなるトラブルが生じたことでした。改善していきたいと思っています。

次回は11月3日(水・祝) 10時から中広会館です。

合唱団員 紹介コーナー

私も歌ってます

越智タエ子さん (S)



1980年代初め、広島で活躍した伝説のバンド「未来」でボーカルを担当していました。

2005年に広島で開催された日本のうたごえ祭典で歌って感動。その後広島合唱団に在籍して数年間活動しました。広島のうちごえ協議会の援助で、2008年にうたごえサークル「きらきら星」を発足させ、地元府中町の皆さんと楽しく活動していました。

2013年郷里の周防大島帰ってからは、年に一度「うたごえジャンボリー」を開き、交流を楽しんで来ました。

2018年広島に帰り、2020年の日本のうたごえ祭典に再び巡り会い、コロナ禍の中ですが、また舞台に立たせてもらうことになりました。

日本のうたごえ祭典が、クラシックから日本語まで幅広いジャンルから参加されて豊かな内容になっているので、凄いなーと思います。

コロナが少し落ちついて、12月の祭典が無事成功する事を祈っています。

チケット普及を 大至急!

合唱練習は進んできましたが、何といっても今、取り組みが求められるのは、チケットの普及です。

10月2日現在、指定席券普及は、PWC185枚(9.8%)、コンサートI 230枚(19.5%)、コンサートII 228枚(21.2%)です。

これから急ピッチで動くことが求められます。歌い手の皆さんも、身の回りの方々に1枚、2枚とチケットを広めていただきますように、よろしくお願い致します。